

カトリック六甲教会 教会報

2012

2

No.482

普通の日々

ダニエル・コリンズ神父

年間主日が続いています。祭日でもない、犠牲を払わなくてもよい、普通の時です。そんな日々をどう過ごすか、とても重要なことのように思います。

これは私からの提案ですが、たとえば、ミサで読まれる第一朗読の旧約聖書と第三朗読・福音のマッチングを考えてみてください。そこに用意されている“つながり”を見出してください。その日の典礼のテーマに思いを向けるのもいいでしょう。それは、ミサの時に聞く司祭の説教と必ず同じでなくてもよいのです。信徒として考え、見つければよいのです。ひとりひとりにとって役に立つ、生きている聖書と向き合ってください。生活の中にあってこそ、意味が見出せるものもあるでしょう。

難しいでしょうか。ひとつのヒントとして、共通するキーワードを見つけてみましょう。そしてその意味を考えてみましょう。福音と旧約聖書では、同じことばを使っている、おのずと意味するところは違います。たとえば「時が満ちた」ということばは、キリスト教徒とユダヤ人が受け取る印象は違います。それはキリストと出会えた私たちだからこそ新しい意味をもつものとなってきます。似ているけれども違う、そこに注目してみてください。

主日のミサの朗読からそれを考えるのなら、一週間の生活のテーマが見つかるでしょう。信徒自らが考えるのなら、神父にとってはありがたいですね。受け取るばかりの、一方通行の聖書ではなく、発信するのもいいですよ。ミサを受けるための心の準備としても、大切なことでしょう。さあ、自分から探し、聖書と出会いに出掛けましょう。



【イエス・その7】

古代におけるキリストの本質理解に関する論争は、ニカイア公会議（325年に開催された第一回ニカイア公会議）における「同一本質」（ホモウシオス）という表現をもって、一応の決着をみた。これはイエス・キリストは、神の本質に属する方であるということが、キリストへの信仰にとって必須の事柄であることを宣言している。

I. ニカイア公会議前史

ユダヤ教の背景には、ヘレニズム思想と違って抽象的な思弁がない。ものの本質を語るときには、そのものの起源や機能を叙述した。聖書がキリストを語るときには、そのような方法をとっている。つまり、キリストの救済論、機能論を記すのである。こうした救済論、機能論には、思弁的に反省を加える必要が出てきた。それにまつわる様々な説が出されることになった。父である神との関係に於いて、キリストをどう位置づけるかが、ニカイア公会議までのテーマであった。

1. 養子説と仮現説

(1) 養子説：

1～2世紀半ばに起こった。キリストの先在やマリアの処女懐胎を否定した。キリストは、ヨルダン川の洗礼の時に、はじめて神の子とされたと主張した。これは神の唯一絶対性を保持しようとの意図が背景となっている。ユダヤ教の伝統から観ると、父である神以外の存在を神と考えることに混乱を感じたのである。特にこの時代は、まだユダヤ教の枠組みの中から抜けきっていない。

(2) 仮現説：

ドケティズムと言われる。これはグノーシスの影響を受けた思想である。グノーシスは、自分が何処から来て何処へ行くかを知ることによって救われると考えた。グノーシスは、霊的な世界と墮落したこの世との二元論である。知によって人間は、またもとの世界に戻れる。この思想の中に救済神話が組み込まれている。墮落したこの世に神の子が来て、人間を霊の世界に連れ戻すというのである。救い主は、低次元の霊界に位置したロゴスまたはソフィアまたはクリストゥスである。この世は悪なのだから、霊界に位置する救い主は、人間になるわけではなく、仮に人間の姿をとっているに過ぎない。

2. 使徒教父の説

使徒教父は、新約聖書の見方を受け継いでいる。キリストの先在、受肉を基本に聖書のキリスト論を展開した。例外は、ヘルマスの牧者でこれは聖霊を中心にした別の見方をしている。

アンティオキアのイグナチオ；

彼の時代から対異端論や護教論が活発になる。霊肉キリスト論を展開している。「キリストは、元来、霊であったのに肉となった」。キリストの人間的な属性と神的な属性の区別を行った。

3. ロゴス・キリスト論の発生

2世紀に入って異端に反駁する動きの中で、ロゴス・キリスト論がキリスト論の中心になっていった。ロゴス思想には、大きく分けてヘレニズム的な流れとユダヤ的な流れの二つがある。ロゴス・キリスト論では、これら二つが、一つに融合している。

(1) ユダヤの流れ：

神のみ言葉（ダバール）は力があり、実際的な効果をもたらす創造性を備える。

ロゴスは先在的で、世界創造の業を行った。

(2) ヘレニズムの流れ：

ロゴスは宇宙の理性的な原理であり、神の秩序である。

これが人間の心や宇宙を支配している。

フィロン（哲学者）；

ロゴス・キリスト論の出発点は、ヨハネ福音書の冒頭にあるロゴス（「初めにみ言葉があった。」）である。この思想もユダヤの流れとヘレニズムの流れを合わせたものである。神の子と神と聖霊について聖書には、派遣という表現が観られる。派遣という観点から三位一体を観た。遣わす者は、遣わされる者より上である。また旧約聖書の上智（ソフィア）の教えである。上智はロゴスと同じ。ユダヤ人の哲学者フィロンは、ストア哲学のソフィアをロゴスに当てはめた。ストア哲学でいうロゴスは、知恵を意味した。ロゴスには二つある。神の中にあるロゴスと、創造するとき、神が発するロゴスである。

ユスチノス（教父殉教者）；

キリスト教の歴史をロゴスの啓示の歴史とみなした。ロゴスには、神の内部にあるロゴスと、そこから出てくるロゴスがある。世界は神の内的ロゴスを分有している。世界に断片的に現れてくるロゴスは、種子的ロゴスと呼ばれる。具体的には旧約の預言者やギリシャの哲人などである。ロゴスは彼らをとおして自己を現す。キリストは、種子的ロゴスではなく、ロゴス全体が顕現したものである。

エイレナイオス（教父）；

彼はヘレニズムのキリスト論に救済論的な基礎を与えた。

ロゴスの啓示史より、ロゴスの救済史を重視した。さらに啓示より愛を重視した。

ロゴスは初めに父とともに存在し、彼を通してすべてのものが造られた。ロゴスは最後の時になって、自分が造った人間と合体し、苦しみを受けることが出来る人間になった。神の子がその時に存在しはじめたのではなく、最初から存在している。子が受肉によって人となったとき、人間の長い歴史を自分の中に再統合 (recapitulatio) し、救いを要約 (recapitulatio) した形で人に与えた。それはアダムによって失ったものを再び私たちが受けるためである。

特徴；・recapitulatio(統合・帰一・要約・再復興・回復・新開始の意)。

・第二のアダム→アダムの罪とキリストの救い。

・交換（彼は、私たちのようになった。私たちが彼のようになるために。）

4. 様態説（サベリウス主義など）**

唯一の神が、様々な様態(modi)で現れると考えた。そのためにモダリズム（様態論）とかモナルキアニズム（単一神論）と呼ばれる。俗に天父受難説とかサベリウス主義と呼ばれる。

II. アリウスの説とニカイア公会議

1. アレイオスの説

キリスト教がヘレニズム世界に受容されるにつれて、神の絶対的な自己啓示の担い手であるイエス・キリストの神性と人性の理性的な理解を巡ってヘレニズム哲学による解明が試みられた。アレキサンドリアの司祭であったアレイオス(250/6~336)は、中期プラトン主義哲学の背景、とりわけ否定神学的な神概念から出発した。神は唯一で名伏しがたい絶対存在者である。被造物とは全く別な次元の存在者である。アリウスは、神と世界の仲介者としてロゴスを考えた。父は子を完全な被造物として発出した。しかし諸々の被造物の一つとして造ったのではない。父は子を造ったのではなく、発出したのである。子は父の意志によって時間と空間のうちに発出した。だから子は父のような永遠な存在でもなく、父と同質の存在でもない。もし子が永遠で父と同一であれば、二つの源泉を持つということになると主張する。これがアリウスの従属説(subordinationism)である。アリウスは、唯一絶対の神を主張するあまり、父と子の唯一・同一の三一的な神概念を理解できなかった。

2. ニカイア公会議の象徴。特にホモウシオスの問題（御父と御子は「同質」）

ニカイア公会議は、アリウスの従属説(subordinationism)を審議するために、コンスタンティヌス皇帝が325年に招集した公会議である。問題になったアリウスの従属説とは何か。子は、父によって時間・空間のうちに発出した被造物である。子は、他の被造物より、はるかに神に近いが、父と同じ神ではない。子は永遠なものでもなく、父と同一の本質を持つものでもない。これに対してアタナシウスらは、父と子が同じ神の本質を有していることを主張してアリウスに激しく反駁し、ニカイアで公会議が開催されることになった。

その結果、公会議は、子が時空のうちに創造されたものではなく、神と同一本質の神であることを主張したニカイア信条（カエサリアのエウゼビオスの提案を若干修正したもの）を採択した他、アリウスを異端として排斥する20のカノンを発布した。

それによると子が父の真の仲介者であるためには、父と同一本質を持つ者でなければならない。もし子が被造物なら、人間は子に於いて真の神に出会うことは出来ないであろう。子が父の側にたつからこそ、人間を死の力から救い、永遠の生命を与えることが出来るのである。しかし、この信条で使われたホモウシオスという語が、後の火種になった。

この用語を使用すべきではないと主張した司教たちの論点は、以下の四つである。

- ① ホモウシオスは、聖書で使用されていない。
- ② ホモスは全く同じという意味に解釈できる。これでは父と子の区別がなくなる
- ③ サベリウス説の用語として使用されたので誤解される危険がある。
- ④ ウシアの問題。この言葉の解釈によっては、父と子の区別がなくなる。

3. カップパドキアの三兄弟と三位一体論

この問題を解決したのは、カップパドキアの三兄弟といわれるバジレイオス、ナジアンスのグレゴリウス、ニュッサのグレゴリウスである。それまで殆ど同義に使用されていたウシアとヒュポスタシスに区別を与えた。ウシアは本性または本質、ヒュポスタシスはペルソナの意味である。父と子と聖霊は、ウシアにおいては全く同一であるが、ヒュポスタシスつまり、位格において異なるという。そして、三者を区別するものは、次の三点である。

- ① 父は生まれぬもの
- ② 子は生まれたもの
- ③ 聖霊は派遣されたものである。

この区別を採り入れた新しい信条を採択するため、第一コンスタンチノポリス公会議が開催された。

**** 〈注記〉** サベリウスは、神を単一的な実体 monad とし、父・子・聖霊を神の顕現様態の相違として、子なる神を唯一神の一つの様態に過ぎないとする様態論 (modalism) を展開した。後のサベリウス主義を主張した人物である。またサベリウス主義とは、サベリウスが提唱した神学を提唱する一派を指す。

サベリウスのモナルキアニズムは、動態論的モナルキアニズム (人間イエスが神となった) に対して様態論的モナルキアニズムに相当する。サベリウスの様態論に於いては、神は創造において父、贖罪においては御子、聖化においては聖霊として自己啓示するとされる。位格 (プロソポン) は一つ。様態または機能が三つ。

後に定着する神学用語「プロソポン」、ラテン語ノ「ペルソナ」は、このサベリウス一派によって最初に導入された。

主任司祭 松村信也



<行事報告>

「第10回 メサイア演奏会」の開催報告

今回で10回目を迎えたメサイア演奏会は、12月11日降誕節第3主日に主聖堂一杯になる聴衆約600人を集め開催されました。70名弱の合唱団は、エリック・コロンの指揮のもと、ヘンデル作曲メサイアから、10曲を熱唱いたしました。

9月ごろから週1回のペースで練習を重ねましたが、とりわけエリック先生の宗教性深いメサイアの解釈とその指導は秀逸で、それぞれが興味深く学びその結果発表は、会衆の大きな反響と高評価を得ることが出来た次第です。10年の歴史の重みを感じました。

600人の聴衆および合唱団の3分の2は、教会とは普段縁のない方々 (かなりの方が例年来られる固定客) でありましたが、この機会に歌う側、聴く側相俟ってキリスト教の信仰について共に理解を深めることが出来たことは、大きな成果だと考えています。こうした行事が今後とも継続出来ることを念願している方々が、聴衆および合唱団双方から多数出ていることは、実行委員会としても嬉しくその責任を重く受けとめているところです。 (メサイア実行委員会)





<行事報告>

神戸市民クリスマス

2011年12月16日、神戸市民クリスマスが日本基督教団神戸教会で行われました。

市民クリスマスは、宗派を超えたエキュメニカルな集いです。普段カトリック教会に通っている私には、プロテスタントの方達がどのようなことを考えているのかを知る機会ほとんどないため、分ち合いができたなら良いと考え、参加しました。私は、献金の使い道に関する説明と、ろうそくに火をともし役割を担当しました。ろうそくへの点火は、各宗派から一人ずつ、合計5名で行いました。点火のときは、まさしくキリスト教各宗派が再び一つとなり祈りを捧げることができたときでした。

この市民クリスマスでは、教会は初めてという方を大勢お迎えしました。どのようにしたらイエスのすばらしい教を初めて教会を訪ねてきた方に伝えることができるのか、そのような観点からも考え続けてゆく必要性を感じました。

東日本大震災で甚大な被害が発生し、つらい思いをしている人たちが大勢いらっしゃる今、神様がどのような思いでおられるのかを考え続けたいと思います。2011年12月25日の主のご降誕が、新たな希望となるように行動し続けたいと思います。いまここにある現実に対してしっかりと目を開き、私たちが神様の道具となれますように。
(佐藤 雅孝)



<行事報告>

「クリスマス音楽の集い」(12月25日)を開催して

昨年から当教会では、「オルガン・メディテーション」といった催しを実施出来ればと考えておりましたが、漸くクリスマスを迎えたこの時期に「クリスマス音楽の集い」として実現出来る運びとなりました。実行委員会の清水真理子さん、三浦優子さんほか多数の方々の精力的な準備のお陰で、すばらしい内容の集いとなりました。出演は、ソプラノの浅野純加さん、オルガンの三浦優子さん、松井公子さん、ヴァイオリンの上田朝子さん、声楽アンサンブルは、カンタテ・ドミノ、コア・リジョイスでした。当教会の中には、かくもすばらしいタレントが沢山おられることを再認識した次第です。

プログラムはJ.S. バッハに始まり、グレゴリオ・チャント、ドイツのキャロル、バロックからロマン派、現代までの幅の広いコンテンツでした。

先日訪問した英国のロイヤル・オペラ・ハウスのキップの裏側に「Less recitative, More aria」(説明、前置きは少し、アリアをもっと!!)と書いてありましたが、私どもは、たとえばチャイコフスキーの曲を聴くと



き、冒頭から理屈なしに曲の中に身体ごと引き込まれます。音楽を媒体とした祈りの高揚はすばらしい神の恵みであります。よい詩、よい曲は相俟って私たちの祈りに大きな効果を呼びさすのではないのでしょうか。今回の「音楽の集い」は、まさにそうした状況を感じるものでありました。

蛇足ですが、小生はいつも祈りを歌うとき、「Religioso Cantabile」を心がけていますが、うまく行きません。上記のヴィルトゥオーゾの爪の垢でも煎じて飲みましょうか。 (船井記)



<行事報告>

新成人祝福式(1月8日)

成人の日に1日早い、主の公現の祭日に、新成人の祝福式が行われました。六甲教会では、今年は7名の新成人が大人への一步を印しました。祝福式には2名の男性が参列。ミサ後に、司式の片柳神父からの突然の指名によるあいさつで、ミサの説教を受けての、「星が指し示してくれる目標に向けて、歩みを進めたい」「大人として、人の役に立つような人生を歩めるよう、目標を探し出し、それを目指し頑張ります」との力強いことばを語ってくれました。



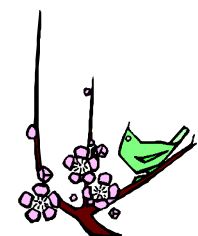
ここに新成人のお名前を紹介し、彼らの未来に神様の豊かな祝福があることをお祈りします。

森本 薫子、城井 敬二郎、又吉 紗綾、徳永 晃大、
岡村 アルベルト、内藤 拓、尾崎 由紀 (敬称略)



<行事報告>

教会新年会



1月8日(日)10時のミサ後にイグチチオホールで教会新年会が行われました。

昨年4月に発足した地区会で、私たち東灘北2・芦屋地区が教会新年会のお当番に当たっております。この新年会は、成人式を迎えられる方、昨年教会に転入された方、洗礼を受けられた方をお祝いする会でもあり、年初めの教会の行事として大きなものでした。多くの方が楽しんで参加できるように、地区長の馬場さんを頭に昨年の終わりごろ何回かみんなで集まってどのような新年会にするか知恵を出し合いました。筆頭に立つ80歳過ぎの元気な馬場さんから「今までのように業者からお寿司などをとったりしないで、心を





こめて手作りの料理でもてなしましょうよ。」という呼びかけがあったものの、果たしてどれだけ手作りで多くの参加者の分を作れるのか正直少し不安でした。

ところが、当日の3日前からみんなのすばらしいチームプレーによる分担作業がスムーズに流れ始めました。大勢の人が均等にお料理を味わってもらえるように工夫をこらしたテーブルセッティング（今回は1台のテーブルを14箇所分散してたくさんの島テーブルを作りました）、ちらし寿司の具の下ごしらえ、鶏を300ピースカットして味付け、当日朝早くからご飯を焚いてちらし寿司とお赤飯のカップへの盛りつけ、鶏やポテトの揚げ、ミートパイ、アップルパイを焼くこと、ケーキなどのデザートへの盛りつけ、その他使った調理道具などの洗浄など、みんなで手分けして素早く行い、台所の中は一時戦場状態でしたが、その中でみんなと和気あいあい冗談を交わしながら楽しく準備を進めることができ、会が始まる30分前にはテーブルの前にお料理、デザートがずらりと並びました。地区の枠を超えてケーキを寄付してくださった方々にもこの紙面を借りて厚くお礼申し上げます。



料理を囲んで多くの方々が楽しく歓談され、和やかな雰囲気でもとてもいい新年会になり嬉しい気持ちに浸りました。そして、お当番をさせていただいた私たちも今回準備を通じて今まで知らなかった人とも楽しい交わりがもてて大きなお恵みを頂けたような気がします。会の最後は地区長の馬場信次氏を相手に全員で勝ちぬきジャンケンゲームをして盛り上がりました。

（東灘北2・芦屋地区 井川伸子）



「新成人が2名でちょっと淋しかったけれど、地区の皆様の手作り料理、家庭的で良かったですよ。パーティ時間も丁度いい長さだったし…。」（評議会議長 蛭田 武）

「絆を感じられるいい会になりました。小さな机がよかった。」



「歌での会のスタートがよかったね。新しいものがスタートした感じだよ。次の担当にはプレッシャーかな？」

「久しぶりの手作りの親睦会、やはりいいものですね。」

「こんなにご飯を食べられて、人と話せた、教会の懇親会は初めてかも？いい一時を過ごせました。ありがとうございました。」



地区長を中心に感想を伺いましたが、どなたも教会の家族と迎えるお正月を、和やかに過ごされたようでした。





<行事報告>

壮年会新年会 大いに語ろう会

教会の新年会に1週間遅れ、壮年会の「新年会」&「大いに飲もう語ろう会」を実施しました。地区会が発足してから、教会行事を地区会に移し、壮年会は親睦を主だった活動としております。バーベキュー大会に続いての壮年会行事です。こういった、親睦会も、つながりも大事？ではないでしょうか。

松村神父様から、初めの祈り、コリンズ神父に乾杯の音頭を取って頂き、会を開始しました(お祈りの前に練習した人はいない・・・と思います・・・)。例年通りの三十人弱の参加でしたが、青年会から参加もありました(活きがよろしい先生ですね)。初めての方の自己紹介、参加者の近況を各自報告し、各々言いたいことを(酒にまかせて?)叫びましたね・・・。お祈りの紹介、ボランティア活動の紹介、イグナチオ会ではなく三日月会との話し、今昔の仕事の話、等々。いい時間となり、片柳神父の終わりの祈りになりました。久しぶりに、言いたいことを言えた・聞けたのではないのでしょうか。



尚、初めて、参加者からの料理の持ち寄りとなりましたが、皆様奥様と仲が良いのか、かなりの持込となり、壮年会で用意したものと合せて、余りが出たほどでした(余りは分け合って持ち帰りです)。婦人会の皆様方、料理を用意された奥様方、ご協力ありがとうございました。(ご自分で作られ持参された方も、お疲れ様でした)



<行事報告>

17年目の阪神淡路大震災祈念ミサに寄せて

2012年1月17日、阪神淡路大震災で亡くなられた方々、そして昨年、3月東日本大震災で亡くなられた方々、2004年10月中越地震、昨年3月12日長野中越地震で亡くなられた方々のご冥福と被災者の方々のための癒しと慰めの祈念ミサが、ここ六甲教会で信者、未信者の方々併せて総勢120名と共に捧げられました。また正午には、地域に向けて追悼の鐘が鳴らされました。



17年前の阪神淡路大震災の折、ご記憶にある方も多いと思いますが、ここ灘区に位置する六甲教会は、灘区の救援センターの役を担いました。

生徒研修所は、全国から集まったカトリック医療団の方々の宿泊所となり、またサビエル・ハウスと教会信徒会館は、被災された方々の仮の宿泊所にもなりました。信徒会館研究室には、教会へ援助の手を求めて来られる方々のために、沢山の救援物資が準備され、大勢の方々の役に立つことが出来ました。その時、何と言ってもボランティアで大活躍し、被災者の方々のお助け役となった頼りがいのある救援隊は、六甲教会の青年会を中心とした若者たちでした。

現在、東日本大震災でボランティアの方々の活躍を観たり聞かされたりするとき、阪神淡路大震災直後から約三ヶ月間殆ど休むことなく、朝早くから夜遅くまで灘区、東灘区をくまなく巡回し、救援物資の配布、倒壊家屋から調度品の搬出、瓦の崩れ落ちた屋根にブルーシートの覆い等々、ものすごい奉仕活動に若者たちが、懸命になって地域の人々のために働かれたことを思い出します。

あれから17年、また東日本で同様に若者たちが奉仕活動されていることに感謝すると同時に、「人と人とのつながりを大切に」を心に刻み、一日も早い復旧、復興を願いながら、今年も祈念ミサに与りました。
世話になった灘区民の一人



《 各部だより 》

📖 小教区評議会

2月11日(土) 10:00 拡大評議会

📖 地区会

2月12日(日) 11:30 第7回地区役員会

📖 三日月会

2月20日(月) 14:00 ミサと例会

📖 教会学校

2月11日(土) リーダー研修会

📖 典礼部

2月19日(日) 11:30~14:00

音楽関係奉仕者の集い

於 第1、第2会議室、主聖堂

📖 社会活動部

2月3日(金) 初金ミサ後 連絡会

📖 施設管理部

2月26日(日) 10時ミサ後 部会

《 お知らせ 》

教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★ 養成部より ★

祈りの道場 テーマ：共に祈る

日時：2月4日(土) 10:00~14:45 15:00~ミサ

指導：英 隆一朗神父

場所：カトリック六甲教会主聖堂

参加費：600円(昼食代)

みなさまのご参加をお待ちしています。

★ 社会活動部より ★

- 2月 1日 (水) 10:00 手芸の集い
2月 19日 (日) 10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)
お弁当・食料品・手作り作品など。
2月 27日 (月) 9:30 ともしび ケーキ作り (お台所)
※ 炊き出しは、今月はお休みです。

★ 男の料理教室 生徒募集 ★

日 時：毎月第3水曜日 10時から13時 (10時～12時 調理、12時から試食会)
次回は2月22日(水)です。

場 所：イグナチオホール 厨房

指 導：富永先生

土井勝氏のお弟子さんで、今でも息子の義晴氏のお手伝いをされています。

費 用：1回 1,500円

もう6年目に入ります。和食が中心で家庭でも簡単に作れるレシピです。

まな板と包丁があれば、まず切り方。乱切り、小口切り、みじん切り、せん切り、輪切り、短冊切り、半月切り、イチヨウ切り、斜め切り、さかがき、拍子木切りなどあり、料理の種類によって使い分けされます。これぞ和食の奥深さを教えていただけます。

しかし、実際には手より口が先の生徒が多くワイワイと楽しくやっています。

★ 墓地つ子たより ★

さて、年末年始にお墓参りをなさる方が多かったようです。
そして反響も様々でした。紹介いたします。

- * 綺麗に草ぬきされた通路や空き地に気持ち良かった。
- * 何時になく綺麗になっていたのでびっくりしたけれど、お墓はあれぐらいでないとね。
- * 管理費納めているのだから日ごろからあれぐらいの整備はしてもらいたいわ。
- * 今までの雑草の茂り方は恥ずかしいと思っていたわ。
- * 今までは綺麗にしてあるのは共同墓地のまわりだけだものね。
- * 今度の墓地の清掃で六甲もやっと一つ社会福祉センターの役に立つこと出来た様やね。
- * これからもお彼岸など定期的に行われるといいですね。

こんなにお墓に関心があることが分かりホッとするとともに、やはり墓地の美化を推進していかなければいけないと思った次第です。ただ、現行管理費は極めて安価ですのでゆき届いた管理、整備が出来ません。そのためにも、管理費増額もやむを得ない、そして放置墓地所有者ごとに清掃をお願いする方法を講じる必要があると感じました。(カトリック六甲教会・墓地委員会 SF)



《 2011年後半に購入した図書のお知らせ 》

図書室より

新約聖書Ⅰ 救世主(メシア) ——人類を救いし者

ケリー篠沢 画 日本聖書協会

新約聖書Ⅱ 使徒(アポストロス) ——遣わされし者たち

ケリー篠沢 画 日本聖書協会

旧約聖書Ⅰ 創世(ジェネシス) ——光を受けし者たち

あずみ椋 画 日本聖書協会

旧約聖書Ⅱ 王国（キングダム） ——国を建てし者たち あずみ棕 画 日本聖書協会

旧約聖書Ⅲ 預言者（プロフェツ） ——希望を告げし者たち あずみ棕 画 日本聖書協会

いずれも新共同訳をコミックにしたものです。大人にも子供にもわかりやすく、そのぶん楽しく読めます。2冊ずつ購入してありますので、友達とあるいは親子で読みあって、共に分かち合い味わうのもよいことだと思います。

ナザレのイエッシュー 山浦玄嗣 著 イーピックス出版

ケセン語訳の四福音書を長年の研究と考察の末に刊行された著者（大船渡の医者山浦玄嗣先生）が、各地の方言を交えて、この大震災と大津波にもめげずに著したセケン語の福音書です。

従来の聖書に比べて日本人のところに近く響き、それだけ読む人に力強く働きかけてきます。場面の状況の解説などもあってわかりやすい、生きている聖書です。

著者は講演の中で「参考書として読んで下さい。」と言われていましたが、間違いなく私たちに新しい視点を与えてくれます。

愛ある生き方 ——人間として大切な3つの心 ヨゼフ・ピタウ 著 海竜社

著者はイタリア生まれのイエズス会士で、上智大学学長 グレゴリアーナ大学学長 バチカン教皇庁教育省局長など歴任の大司教。2004年日本に帰国。現在東京在住。

『ささげる心』『思いやる心』『ほほ笑む心』を師特有の温かく優しい力強い言葉で、ご自分の生きて来られた道をふまえて語られます。

キリシタン時代の日本人司祭 H.チースリク 著 高祖敏明 監修 教文館

16世紀禁教下のキリシタン時代に叙階された日本人（邦人）司祭 41人のプロフィール。旧著「キリシタン時代の邦人司祭」の改訂版。殉教された方、棄教した人、帰国を強く願いつつ異国で果てられた方、修道会や教区司祭たちが、禁教下での苦難の中での、生き方とたどられた道を語る。

ペトロ岐部カスイ 五野井隆史 著 教文館

福者188殉教者の一人。国東で生まれ、有馬セミナリオで学び、ゴアからペルシャの砂漠を経て聖地に至り、ローマで叙階、喜望峰を回り、フィリピンから密入国。東北地方で布教、捕縛されて江戸で殉教したイエズス会司祭の生きた道筋を資料に基づいて語る。

オスカル・ロメオ ——エルサルバドルの殉教者 マリー・デニス他 著 聖公会出版

貧困のラテンアメリカで、体制の期待を担って首都サンサルバドルの大司教となったロメオ司教は、イエズス会のグランデ神父と二人の連れの虐殺を機会に、貧しい者の声を受け止めて立ち上がり、「貧しい人々こそ神からのよい知らせ、福音である」と説くようになった。1980年3月24日 ミサの説教後 奉獻の最中に軍の凶弾により殉教した。

合衆国や教皇庁の支援を受ける十四家族など少数支配層や軍への、貧しい者達の非暴力による抵抗は高まり、このあと12年にも及ぶ内戦が続いた。師の貧困者への霊性は、今もなお貧しさをはじめとする様々な困難の中にある人々と共に歩み、貧しい人たちの力・絶えない命・希望の光となって支え続けている。

ご質問・ご意見・ご希望がありましたら、図書室の「ご意見箱」にお願いいたします。
図書室では、皆様のご利用をお待ちしております。



信 徒 動 静

【転出】お元気に貴小教区でご活躍下さい

1月11日	使徒ヨハネ	間瀬 智	麻布教会
1月21日	モニカ	佐藤 麻子	高輪教会
1月22日	マリア・ソフィア	齋藤 智子	野田町教会

【帰天】永遠の永遠の安息をお祈り致します

1月 2日	マリア	大倉 孝子
1月 4日	マリア・マグダレナ	大竹 静
1月10日	ペトロ	鈴木 良雄
1月10日	レオ	豊田 功



東ブロック合同

使徒ヨハネ 諏訪 栄治郎 司教様 歓迎ミサ

神戸地区東ブロック（住吉・六甲・神戸中央教会）では、
諏訪司教様をお招きして、下記の通り「歓迎ミサ」を行います。
多くの方のご参加をお待ちしております。

記

- 日 時：2012年2月19日（日）11：00～
歓迎ミサ、ミサ後 激励パーティ
司式：諏訪司教、シリロ神父、ダンス神父、オマリ神父、
赤波江神父、松村神父、片柳神父（予定）
- 会 場：カトリック神戸中央教会
※ 堂内献金は高松教区の支援金に充てられます。
※ ミサは日本語・英語で行います。



みんなの広場

公教会祈祷文

ヨハネ 三好榮之助

嘗て教会には戦前から「公教会祈祷文」といういろいろの祈り文を集めた本が使われていた。今手元にあるのは分解間近の戦後1960年版だが、縦12cm横9cm本文337ページの小さいもので、ミサなどではこれを使っていた。主祷文、天使祝詞、栄唱、使徒信経、痛悔の祈り、告白の祈り、ミサの祈り（ミサはすべてラテン語、信徒には司祭が何を読み唱えているのか全く分からなかった）、朝の祈り、夕の祈り、待降節、降誕節などの聖暦年の祈り、その他いろいろ定型の祈りが収録されていて祈るときにはこれを開いたものだった。今も祈り本がいくらかあるがこの「公教会祈祷文」ほどまとまったものは見ない。その中の朝と夕の祈りは中央協議会版「日々の祈り」に少し簡略化したものが載っている。

新年会で新たな受洗者に今はどうかと尋ねたのがいた。新しい受洗者だけのことではない、自分を省みても確かに受洗の頃は今よりは真面目で真剣だったと思う。年を経るに従ってどうなったか、今はその成れの果ということか。

毎日朝夕決まった言葉の決まった祈りを唱える、最近あまり奨励されなくなったようだ。型どおりの祈りを毎朝毎晩に型どおり唱えなさいとよく言われたものだった。型どおりいわば機械的ではとかく口先だけの上の空になる。コリンズ神父がミサの説教でよく言われる。「我々は失敗する、決まっている」、まさにその通りになる。それで終わればそれまで、やり直せば続く。毎日同じことの繰り返しになったとしてもまだ後がある。その時まで。

牧者を失い秘跡に養われることもなく、信仰をひた隠しにしなければならなかった切支丹が信仰の最後の埋もれ火を保ち得た摂理を具現できたのは、彼らが代々伝えられた型どおりの祈りを型どおり習慣として伝え続けたことによるのではなかったか。習慣の威力は侮れない。

毎朝毎晩型どおりの決まった祈りを型どおり唱える、それを一々意識しないほどの習慣として身にしみこませておくことも悪いことではないだろう。「日々の祈り」を使ってもよい、それも大儀なら名刺ほどの小さいものの表裏に朝と夕の祈りを印刷したものもあるから、それと主の祈り、アベ・マリアの祈り、栄唱、使徒信条を加えるだけでもよい、黙読ではなく唇を動かして唱える、見えないものに向かって。そんなことをしなくても常々神と対話をしながら過ごしているというのなら別だが。

今月はもう四旬節に入る。

広報部員のつぶやき

慌しく日々を過ごしているように思う。日々起こる出来事を見逃さず、心に向けていけると願う。心を落ち着けるのに、コリンズ神父様の提案は効果がありそうですね。皆様の身近な出来事、心の動きを寄稿いただき、分かち合いたいと願っています。 ★♡★

教会報3月号の発行は、2月26日(日)です。
編集会議2月19日(日)です。
記事原稿は、2月12日(日)正午までに信徒会館
受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21
電 話 078-851-2846
F A X 078-851-9023
発行責任者 松村信也神父
編 集 広 報 部